

横浜市立大学先端医科学研究センター コミュニケーション・デザイン・センター
『クリエイティブ・ホスピタル・プロジェクト』企画第 1 弾
病院におけるコミュニケーション・デザインの可能性を発信！
～YCU-CDC × dentsu～

横浜市立大学大学院医学群 先端医科学研究センター 武部貴則教授（東京医科歯科大学統合研究機構 教授・米シンシナティ小児病院 准教授）と株式会社電通は、2014 年より、ヘルスケア分野に人を動かす「広告」の視点や技術を取り入れ、人々の行動変容を実現するコミュニケーション研究「広告医学（AD-MED）」を推進しています。

今年度より本学先端医科学研究センター内に開設された、コミュニケーション・デザイン・センター（YCU-CDC）の新たなプロジェクトである「クリエイティブ・ホスピタル・プロジェクト」の第 1 弾として、病院におけるコミュニケーションを象徴するアイテムを対象にプロトタイピングを行います。附属病院内での**展示企画「知らせるマスク」「いないいない白衣」「ナースバード」**という 3 つの実例を通じて、今後、さまざまなヘルスケア課題に対してコミュニケーション・デザインが持つ力の可能性を発信します。

<展示企画概要>

- ◆期間：平成 30 年 11 月 9 日（金）～11 月 16 日（金）9：00～17：00
- ◆場所：横浜市立大学附属病院（金沢区福浦 3-9） 3 階（エスカレータ上）
- ◆展示企画



知らせるマスク



いないいない白衣



ナースバード

- ◆取材をご希望の方は事前にご連絡下さい。写真データの提供についてもお受けいたします。
- ◆プロジェクト・展示についてのお問い合わせ先：

YCU コミュニケーション・デザイン・センター 西井
Tel. 045-350-4760 E-mail : snishii@yokohama-cu.ac.jp

1. 知らせるマスク … ウイルスを視覚化するマスク

マスクには、飛沫感染、接触感染によるウイルスの感染を抑える効果があります。特にこれらの感染は、人が大勢集まる場所で発生しやすくなります。この一見かわいく見えるデザインは、実は感染するウイルスをモチーフにしています。ウイルスそのものがデザインになることで、ブロックするウイルスを理解する。マスクのデザインそのものが、流行するウイルスを教えてくれる「広告」の役割を果たすことで、周りの人も感染予防の意識も高まります。物理的に感染を防ぐだけでなく、知覚的にも機能することで感染を防ぐマスクです。

※この取り組みは横浜市立大学附属病院 感染制御部が監修協力しています。

2. いないいない白衣 … 子どもに好かれる白衣

医師の着ている、白衣。元々この白には、汚れが目立つことで医療現場において清潔を保つという意味があります。しかし、子どもによっては「白衣＝こわい」と感情が結びついてしまい、白衣を見ただけで泣いてしまう子どもも、少なくありません。実際、大人でも、緊張が理由で血圧があがる「白衣高血圧」という症状があります。この「いないいない白衣」は、緊張した医療現場の空気をやわらげるコミュニケーション・ツールとして、袖から飛び出した耳を裏返すと、大好きなカワイイ動物たちが、子どもの気持ちを落ち着かせます。

※刺繍は日本屈指の刺繍の産地、群馬県桐生市の（株）笠盛様にご協力いただきました。

3. ナースバード … 聴き上手なトリ型ロボット

ナースバードは、あなたの健康状態を聞き出すロボットです。相手の痛みや悩みを詳細に聞き出すことで、症状や状態を把握する「傾聴力」は医療の現場でも大切なチカラ。お医者さんや看護師さんの白衣を見るだけで緊張してしまう「白衣高血圧」の人でも、ちいさなロボットになら話せてしまう。遠くない未来、診察前にナースバードが事前問診を行い、カルテに反映。診察時間が短縮されることで、病院での待ち時間も減らせるかもしれません。ぜひ、話しかけてみてください。

<プロジェクトメンバー・クリエイター>

dentsu

(株)電通 河瀬 太樹 アートディレクター／ビジョナー
中川 諒 コピーライター／プランナー
村上晋太郎 電通 CDC
梅田 悟司 現インクルージョン・ジャパン (株)
取締役 コミュニケーション・ディレクター

<お問い合わせ先>

YCU
横浜市立大学

(YCU-CDC の取組について)

公立大学法人横浜市立大学 コミュニケーション・デザイン・センター
センター長・教授 武部貴則 E-mail : ttakebe@yokohama-cu.ac.jp
助教 西井正造 E-mail : snishii@yokohama-cu.ac.jp

(取材対応窓口、資料請求など)

公立大学法人横浜市立大学 研究企画・産学連携推進課長 渡邊 誠

Tel. 045-787-2510 E-mail : kenkyupr@yokohama-cu.ac.jp

参考

1. 知らせるマスク



「正しい、サージカルマスクのつけ方」



「正しい、サージカルマスクの外し方」



※撮影は（株）アマナ様にご協力いただきました。 <https://amana.jp/>

ノロウイルスによる感染性胃腸炎や、夏かぜ、インフルエンザなど、飛沫や経口で感染するウイルスによる感染症が増えています。くしゃみ1回で、ウイルス200万個、せき1回でウイルス10万個が飛散します。また、インフルエンザウイルスなどは、飛散してから24～48時間もの間、感染力を持っています。

マスクは、感染を防ぐうえで非常に重要なアイテムですが、写真のように正しいつけ方、外し方をすることが大切です。

<協力> 横浜市立大学附属病院 感染制御部 部長 加藤英明
師長 中村加奈
医学部 血液・免疫・感染症内科学
講師 吉見竜介



2. いないいない白衣

(株) 笠盛 概要

1877年(明治10年)群馬県桐生市にて創業。最先端の技術と、長い歴史に培われた昔ながらの職人の経験を組み合わせ、手作りの温もりある機械刺繍が特徴。数々の国内外のトップメゾンの刺繍ワークを手がけるだけでなく、刺繍をつかったオリジナルアクセサリーブランド「000(トリプルオー)」を展開する。

<http://www.kasamori.co.jp/>

※刺繍は日本屈指の刺繍の産地、群馬県桐生市の(株)笠盛様にご協力いただきました。

子どもにとって病院で行われる治療は嫌なこと・怖いことも多くあります。その中で私たちCLS(チャイルド・ライフ・スペシャリスト^{*1})は、検査や処置中に、絵本や光るおもちゃ等のツールに子どもが集中できるよう関わり、心の中が恐怖や不安でいっぱいにならないよう支援しています。この「いないいない白衣」は、子どもが大好きなかわいい動物が隠れていることで興味をひき、ディストラクション・ツール^{*2}としても効果的です。

横浜市立大学附属病院CLS 石塚 愛



*1 病院で医療を受ける子どもや家族を心理社会的に支援する専門職

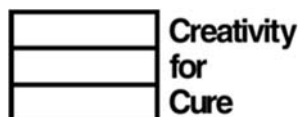
*2 処置や治療に対する恐怖心や苦痛を緩和させるために意識を向けさせるためのツール

3. ナースバード



(イメージ図)

- ◆ 横浜市立大学先端医科学研究センター
コミュニケーション・デザイン・センター (YCU-CDC) について



Creativity for Cure
医療から社会を変える。

ヘルスケア分野のコミュニケーション課題解決を目指す、世界初の医科学研究機関におけるクリエイティブ研究拠点です。医科学研究の拠点においてクリエイティブ研究のための持続可能な開発体制を構築し、コミュニケーションの力を使って、ひとびとの健康や幸福に寄与すること、ひいては、超高齢社会に対応した新たな社会のあり方を提案することを目指しています。